

三 カシミアの『わた』の話

【採毛】

春は一年の苦労が実る嬉しい収穫のシーズン

カシミアの『わた』とは、カシミアのうぶ毛のことです。

カシミアは太くて硬く長い剛毛に覆われていますが、その剛毛の内側にあの柔らかいうぶ毛が生えています。カシミアのセーターになるのはこのうぶ毛です。そのうぶ毛の収穫は春5月ごろ。カシミアの毛が冬毛から夏毛に生え換わる頃に、熊手のようなもの（もちろん先は尖っていません）で梳き採ります。冬毛は自然に抜け落ちてしまうので落ちる前に人間が頂くのです。

カシミアは羊のように毛を刈り取ることができません。（最近是一部、刈り取ることが出来るそうです）一頭の毛を梳くのに一時間ぐらいかかります。素人の私が体験させて頂いた時は五分ぐらいで腕がパンパンになりました。採毛のシーズンの間牧民の皆さんは一日中カシミアのうぶ毛を梳くのでかなりの重労働です。でも春は牧民の一年の苦労が報われる収穫の喜びの時で、苦にならないと笑顔で話してくださいました。

苦労して育てるカシミアですが、一頭から採れる量はわずか一八〇グラム前後で、UTOCASHIYA天使のストールのレギュラーサイズ分ぐらいなんです。

最近、ニットや布帛などのファッション素材は化学繊維が大半を占めることになってしまいました。

カシミアは牧民の人たちが家畜として愛情いっぱい丹精を込めて飼育放牧し、厳しい冬を越して生え変わる冬のうぶ毛を収穫する農畜産物です。飼育することで毎年収穫が可能ですので国連が提唱する典型的なSDGs（持続可能）の農畜産物と言えます。利用した後には廃棄しても自然に戻るエコロジカルな素材です。

【土毛の選別】

地道だが現地の雇用を生む大事な工程

放牧されているカシミアですから毛には枯草や木の小枝やゴミなど一年分の汚れが付い

ています。この状態の毛は土毛と呼ばれていて、牧民から集められた土毛は六十キロもある大きな袋に詰められて選別場に運び込まれます。

土毛の不純物を取り除くのが選別作業です。選別作業は人海戦術で、それは地元の女性達の仕事のようです。カシミヤのわたり作りの工程ではこの選別の工程が一番多くの人手を必要としています。

選別作業は編みや縫製のように熟練を要する技術者と違って、採毛した毛からごみや小枝を選び分けたり、こびりついた汚れを薬品で落とすというような単純作業で、高い賃金ではないけど、一般の人でしかも大勢の人たちの雇用が生まれるのであまり仕事のない地元では大いに有難がられているそうです。

体育館みたいな広い部屋に、髪かぶりとマスクで完全武装した大勢の女性が目を凝らし、黙々と選別している光景は圧巻でした。

【洗毛】

褐色の濁り水から次第に真っ白いワタが

選別されたカシミヤは洗いの工程に進みます。

洗毛の部屋に入ると、湿気と獣の匂いでむせかえっていました。五十メートルもあるような洗毛機に投入されたカシミヤは何回も何回も洗浄されて、始めの頃は褐色の濁った水で見る影もない姿ですが、洗われていく内にだんだんと澄んだ水になり、洗いあがって乾燥された毛は真っ白です。でもこの時点では剛毛が入っているのであふわふわのカシミヤという感じはまだしません。

【整毛】

最も難しいカシミヤならではの工程

羊、キヤメル、アルパカなど、カシミヤ以外のウールの糸は収穫した原毛がそのまま紡績され糸に加工します。しかしカシミヤは収穫された原毛には『刺し毛』と呼ばれる硬い毛と、その内側にある『うぶ毛』が混ざっています。

あのふんわりと柔らかいカシミヤの原料にするには、うぶ毛だけを取り出さなければなりません。刺し毛とうぶ毛を分けてうぶ毛だけを取り出す工程が整毛加工です。

整毛加工とは、原料になるうぶ毛を『繊維の切断や損傷を少なく、刺し毛を完全に取り除

く』ことで、カシミヤの『わた』を作る上で最も重要な工程です。これは技術的にも難しく、整毛の技術で原料の良し悪しが決まるといっても過言ではありません。

カシミヤの原料は色と繊維の太さと長さが重要な品質基準になります。元々のカシミヤのうぶ毛はかなり長いのですが、整毛作業中に起きる繊維切断で短くしてしまうので、この工程での毛を切断させない技術が品質を左右するとも言えます。

取り除いた刺し毛（剛毛）は、畑の飼料にして有効に利用されるそうです。

整毛の過程ではもちろん、ウール全般原料が乾燥しすぎると繊維が劣化し切断しやすくなるので湿度が重要で67%〜68%が適湿度だそうです。冬場は良いが夏場は蒸し暑くて大変な仕事です。

70年代頃までは、日本の紡績会社でも土毛を輸入してこの選別から洗い、次の整毛工程まで自社で行っていたそうです。

中国は現在、土毛の選別、洗毛、整毛までは現地の雇用を維持することと付加価値を付けるために原毛では輸出しないので、カシミヤの原料といえばカシミヤ整毛原料のことです。

世界中の紡績会社は中国からの原料は整毛の原料を買うことになり、今ではこの工程は日本やヨーロッパでは見ることができません。

【カシミヤ100%?】

本当にカシミヤ100%ですか？

以前、カシミヤの混率表示誤りがあり新聞やテレビで大騒ぎになったことがあります。この事件はカシミヤを生業としているUTOとしても大問題です。ショックだったのは摘発されたのが有名百貨店や誰もが知っているセレクトショップだったことです。

カシミヤは普通のウール等に比べて10倍位高価な原料なのでちよつとの混率の違いで大きく原価に影響するので混率を誤魔化してひと儲けしようとする輩が多いのです。

カシミヤの混率を誤魔化して仕入れを安くしても発覚した時のリスクを考えると全く割りに合わないので今回の事件は『引っかかった』個人的には思いますが。この混率問題はなかなか無くなりません。

それにしても、ウール50%、カシミヤ50%の商品でカシミヤが0%だったというこのケースは、毎日カシミヤを触っているものとしてあまりにもお粗末と思うんですが、サンプルは本物が来ていざ現物となると偽物が入ってくるという詐欺みたいなこともあるという

のですから絶対に手を抜けません。

ファッション業界は法律の規制が少ない業界で、お店やアパレルを開業するのに免許や登録がいることも無いし、どんな色の商品を作ろうがどんなデザインにしようが建築基準法のように規制があるわけでもありません。かなり自由な業界ですが、原料と洗濯と原産国の正しい表示は法律で義務づけられています。

UTOはカシミヤが売りでほとんどの製品がカシミヤですから、もし混率問題でカシミヤが販売出来なくなったら即倒産で社員を路頭に迷わせることになってしまうので絶対に間違いは許されません。その為にも混率には神経を使いますが、一番のポイントは絶対に信頼できる先から原料を仕入れること、甘い話に乗らないことだと確信しています。

カシミヤの製品ができるまでにはたくさんの人や会社を経なければなりません。

カシミヤの原毛は日本では獲れないので紡績会社では輸入の度に自社や公の検査機関で原毛の混率を検査しています。もちろん輸出する方も途中で異物が入らないように何回も検査をして輸出します。異素材を混ぜるのは原毛のワタの時しか機会がありませんから。原毛の時点での検査が重要です。

このように厳重に検査しても、原毛を縛っていた縄が切れてその縄の繊維が混入して99.9%などという検査結果が出ることもあります。意図的以外で1%を超える異物混入ということはあり得ません。不測の事態に備える為に法律ではカシミヤが97%までは100%の表示を認められていますが、ちゃんとしたルートなら3%もの異物が混入することはまず考えられません。

通常、『ケケン』と呼ばれる毛製品検査協会は海外などから輸入された原料や製品が表示通りの製品が消費者に届くように、不当表示を食い止める機関です。自己防衛の為にきちんと検査・証明してもらうことが重要です。

以前、『カシミヤとニットの話』という本を書いたときにお世話になった検査官の木村さんに検査の現場を見せて頂いたことがあります。顕微鏡で目視検査されているのを目の当たりにして『大変な仕事だなあ』と思ったんですが、しかしこの検査。やっってもらう方は結構お金がかかるんです。